

江北の四季

令和2年
8月13日
第20号



ギボウシの花と蝉の抜け殻

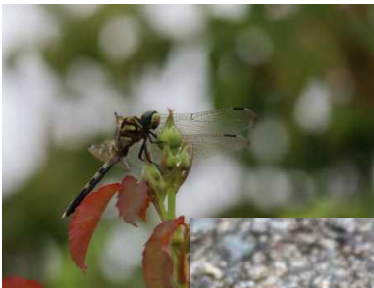
○立秋、第三十八候、次候、寒蟬鳴(ひぐらしなく)。カナカナとひぐらしが鳴き始める頃。

アブラゼミが鳴いていると暑く感じ、カナカナゼミが鳴きかけるともう夏も終わリだなと思えますが、実は我が家の庭でよく耳を澄ましていると、アブラゼミのジリジリジリとクマゼミのシャアシャアシャアが

ほとんどですが、それに混じってヒグラシやツクツクボウシの声もときに混じっています。どうも暑い暑いと思っているうちはアブラゼミの声しか聞こえないようですが、朝夕の涼風をふと感じるときにはカナカナゼミの声が聞こえてくるように思います。そして子供たちが帰って賑やかなお盆が過ぎると、毎年のことですが急にツクツクボーシ、ツクツクボーシときみしそくに聞こえてくるから不思議です。どうも人の心が聴く蝉の声を選んでいるように思います。日本人の心は日本の四季とは切り離せないようです。

青色トンボをやっと見つけました。

どちらもしオカラトンボで



す。青色がオスで黄色がメス。黄色はムギワラトンボと呼ばれます。



オクラの花



ホトトギス(杜鵑草)

ホトトギスが咲き出しました。名前は若葉や花にある斑点模様、鳥のホトトギスの胸にある模様と似ていることからつきました。



チェリーセージ

次々と小花が咲く宿根草

○十三日から十六日までがお盆です。暑くてなかなかお盆の準備ができませんでしたが、立秋に入ったので重い腰を上げ、数日前に早起きをしてお墓掃除と仏壇の掃除をしました。仏壇のある座敷には冷房が入らないので、エアコンのある茶の間に仏具を運んでお磨きをしました。例年は仏壇の前でお磨きをしているのですが、こんなことは初めてのことです。また、コロナ禍のため、十四日夕方のお寺様による墓地の読経も十五日の御御堂(おみど)に集まったの読経もなくなり寂しいお盆となりました。我が家の宗教である浄土真宗には、亡くなった人が霊となるような考え方はありませんので、お盆といっても特に変わったことをすることはなく、いつもと同じようにご先祖様に感謝をして念仏するだけです。ただこう暑いとそれもおっくうになってしまいます。



タカサゴユリ(高砂百合)

種子でも増え一年目から開花するので、あちこちで繁殖しています。(オニユリと似ていますが、オニユリは六月頃咲き、実生からは数年かかります。)



ツルボ(蔓穂)

別名サンダイガサ(参内傘)。これは花穂の形状が公家が参内する時に用いる長柄傘を畳んだ形に似ているから。道端、土手などの日当たりの良いところで育ち、球根で増えます。細い葉の間から20cm〜30cmくらいの細長い花茎が出て、先にピンク色の穂をつけます。



サギソウ(鷺草)

I先生からいただいたサギソウが咲き出しました。まさに純白の白鷺の飛翔です。涼しげな花はしばし暑さを忘れさせてくれます。



ニラ(菹)

栄養分に富み、葉は特に強精、強壯作用があることで知られています。夏バテにいかがでしょうか。



ノゲイトウ(野鶏頭)



トサカイトウ(鶏冠鶏頭)

